

1. 過敏性腸症候群における漢方薬の使い分け

過敏性腸症候群は排便異常や腹痛を伴う機能性の腸疾患です。背景にはストレスの鬱積による不安や不眠、胃腸虚弱、冷え症など様々なことが引き金になります。

過敏性腸症候群には便秘が主体の**便秘型**と、下痢が主訴になる**下痢型**があります。

2. 桂枝加芍薬大黃湯(ケイシカシャクヤクトウ)…過敏性腸症候群(便秘型)に用いられる基本処方

便秘型の第一選択薬は**桂枝加芍薬大黃湯**(ケイシカシャクヤクダイオウトウ)です。ストレスによる胃腸機能の低下を調整する桂枝加芍薬湯(ケイシカシャクヤクトウ)に便秘を改善する大黃(ダイオウ)を加味した処方です。

過敏性腸症候群の便通異常や腹痛に用いられるは主な生薬は、腹痛・筋肉緊張を調整する芍薬(シャクヤク)と甘草(カンゾウ)です。この両生薬の組み合わせが、桂枝加芍薬大黃湯や桂枝加芍薬湯の基本となっています。

3. 大建中湯(ダイケンチュウトウ)…冷えと腹痛と腹部膨満感

体力虚弱な冷え症の人の腹痛と腹部膨満感に用いる処方が**大建中湯(ダイケンチュウトウ)**です。

本方は、体力低下状態(気虚:キキョ)補う補気薬(ホキヤク)の人参(ニンジン)と膠飴(コウイ)に加えて、冷えを温める散寒薬(サンカンヤク)の山椒(サンショウ)と乾姜(カンキョウ)を含みます。

山椒や乾姜は腸の運動を適度に刺激し、人参とともに腸管粘膜周辺の血流を高めます。

5. 過敏性腸症候群(便秘型)に用いる処方のまとめ

過敏性腸症候群の便通異常に用いられる基本処方、**桂枝加芍薬湯**です。

便秘の程度が顕著であれば**桂枝加芍薬大黃湯**が適します。

体力の低下した子供の腹痛や疲労感や寝汗を伴う場合は、桂枝加芍薬湯に膠飴(水飴)を加えた**小建中湯**(ショウケンチュウトウ)が適応になります。

冷えや腹痛や膨満感があれば、**大建中湯**がよいでしょう。

便秘傾向	
体力中等度以下 腹部膨満感、強い便意と腹痛(裏急)、便秘傾向	リキウ ケイシカシヤクダイオウトウ 桂枝加芍薬大黃湯
体力虚弱 疲労感、腹痛、動悸、手足のほてり、冷え、ねあせ	ショウケンチュウトウ 小建中湯
体力虚弱(顕著な冷え、腸の通過障害) 腹が冷えて痛む、腹部膨満感、腸の動きが触知できる。	ダイケンチュウトウ 大建中湯
便秘・下痢交互型	
体力中等度以下 腹部膨満感、強い便意と腹痛、便秘と下痢(しぶり腹)	ケイシカシヤクウトウ 桂枝加芍薬湯

※裏急(リキウ)：排便後にすっきりしない残便感があり、腹痛を伴う便秘や下痢軟便を繰り返す状態。「しぶり腹」ともいいます。

6. 半夏瀉心湯(ハンゲシャシントウ)…過敏性腸症候群(下痢型)に用いられる基本漢方

処方

過敏性腸症候群の下痢傾向に用いられる第一選択薬は**半夏瀉心湯**(ハンゲシャシントウ)です。本方は心窩部(みぞおち部)がつかえて、嘔気を伴い、口がねばり、おなかがグルグル鳴り、ベトベトした泥状の軟便の状態に適します。

本方の配合主薬の基本は、人参、甘草、大棗(タイソウ)という胃腸機能を整える補気(ホキ)薬です。さらに、むかつきや吐き気を整える化痰(ケタン)薬の半夏(ハンゲ)、口臭や口のねばり、胃痛などの熱証を軽減する黄連(オウレン)と黄蘗(オウゴン)という清熱(セイネツ)薬が含まれています。

なお、吐き気が気になる場合には、すった(おろした)土ショウガを混ぜた温湯で服用すると良いでしょう。(温湯で吐き気が誘発される場合は、冷たい水で飲んでください)

7. 人参湯(ニンジントウ)…冷えの強い過敏性腸症候群(下痢型)

人参湯(ニンジントウ)は、半夏瀉心湯の適応病態より虚弱で疲れやすく、手足の冷えや腹痛の顕著な状態に適します。

人参湯に含まれる人参や甘草や乾姜(カンキョウ)は半夏瀉心湯と共通ですが、消化器系の機能を整える白朮(ビャクジュツ)が含まれているのが相違点です。

白朮は、胃もたれ、下痢など消化器系に停滞した水を除いて機能を整える利水(リスイ)薬です。

4. 過敏性腸症候群(下痢型)に用いる処方まとめ

体力中等度(みぞおちのつかえた感、口内炎) 悪心、嘔吐、食欲不振、腹が鳴って軟便又は下痢傾向	ハンゲシャシトウ 半夏瀉心湯
体力虚弱(疲れやすく手足などが冷える、冷房下痢) 胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛	ニンジントウ 人参湯
体力虚弱(全身四肢の冷え、疲労倦怠感) 下痢、腹痛、めまい(動揺感)、動悸	シンプトウ 真武湯

下痢傾向の過敏性腸症候群に用いる主な漢方製剤